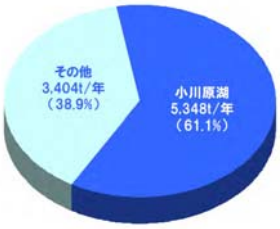
小川原湖は地域に恵みをもたらしています

●盛んな内水面漁業

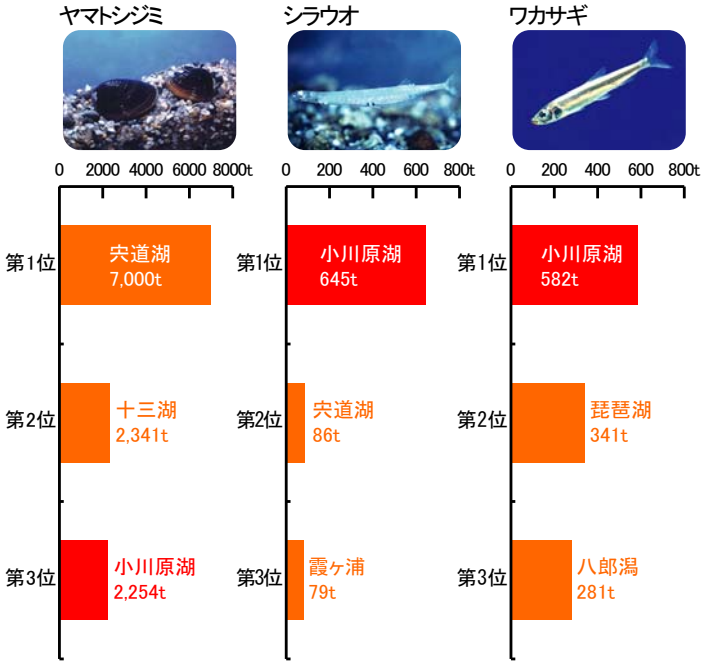
● 小川原湖は、古来より「たから湖」と呼ばれるほど魚介類に恵まれており、シジミ、シラウオ、ワカサギなどの内水面漁業が盛んで、湖周辺は古くより人々の生活の場として利用されてきました。

● 内水面漁獲高（河川を除く）は青森県の約60%（平成14年）を占め全国的にはシラウオ、ワカサギの漁獲高は全国第1位、シジミはしめ小川原湖は全国第3位となっています。



県内での小川原湖が占める漁獲高

データ：農林水産省（平成14年）



●風物詩となっている伝統漁法

● マテ漁、氷下曳（シガビキ）漁などの伝統漁法は高瀬川の風物詩であり、文化的にも重要な漁法です。

［シガビキ漁］

シガビキ漁は、中国北部の黒竜江付近を基点とする北方型の漁法で小川原湖が南限とされています

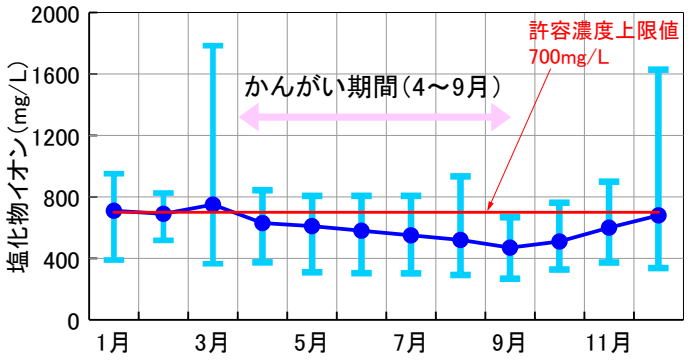
［マテ漁］

マテ漁は、東南アジアを起源とする南方型の漁法で小川原湖が北限かつ日本で唯一とされています

●かんがい用水として利用可能な塩分濃度

● かんがい用水として253箇所から最大約9.4m³/sの取水がなされており、約1900haの水田を潤しています。

● 小川原湖は海水を含む汽水湖ですが、かんがい用水として利用可能な塩分濃度を保っており、過去に塩害が生じた事例はありません。

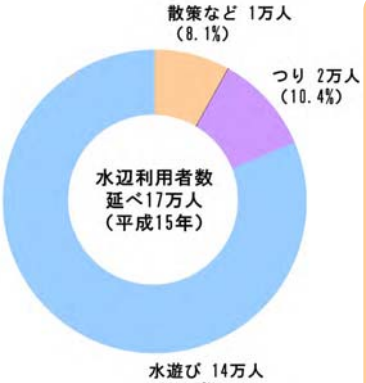


小川原湖の塩分濃度変化図

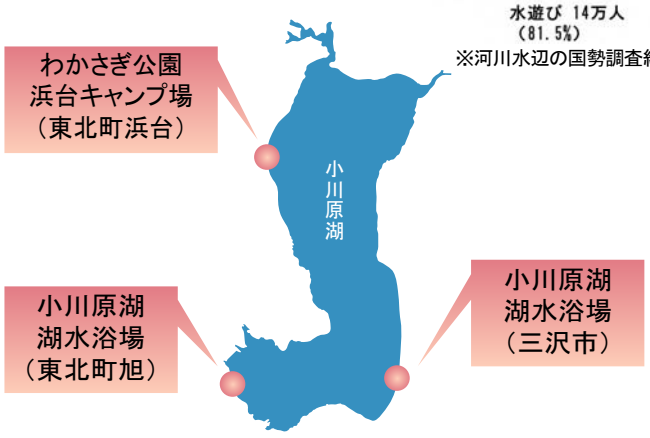
●活発な水辺の利用

● 小川原湖（小川原湖から河口までの高瀬川を含む）では、水遊びを中心に年間約17万人の人が利用しています。

● 水辺整備が行われている「わかさぎ公園」（浜台）、「小川原湖湖水浴場」（旭、三沢）の3地点では特に利用者数が多く、湖水祭やカヌー競技会等のイベント会場にも小川原湖なっています。



※河川水辺の国勢調査結果より



ウィンドサーフィン

花火大会

シジミ採り

湖水浴

白鳥

ワカサギ釣り